



# 勸興小学校だより

第 10 号

令和5年10月6日発行

文責 校長 中村 幸江

勸興魂「勉強はベストをつくし 運動はくたくたになるまで」

## ☆全国学力・学習状況調査について～勸興小の状況～☆

4月18日に実施された『全国学力・学習状況調査』について、9月1日の新聞で報道されました。勸興小、佐賀県、全国の平均正答率をグラフにまとめてみました。

教科名	平均正答率(%)		
	勸興小	佐賀県	全国
国語	70	68	67.2
算数	64	61	62.5

上記の表のとおり、本校の結果は国語・算数ともに佐賀県や全国の平均正答率を上回っていて概ね良い結果となりました。子どもたちの日々の学習への取組や、それを支える教職員の指導の成果が現れたものだと思っております。

この結果について、夏休み中に全職員で細かい分析を行い、「結果及び考察」、「学力向上のために学校で取り組むこと・家庭で取り組んでいただきたいこと」などを学校ホームページに公開しております。ぜひご覧いただき、今後の参考にさせていただければ幸いです。

## ☆令和5年度 第1回 自学・自習コンクール☆

勸興小では、学年の発達段階に応じた自主学習を奨励しています。子どもたちの自学ノートを見ると、「学校で学習したことから興味をもった内容をさらに広げたもの」、「新聞の記事から気になったものを取り上げてまとめたもの」、「身近な生活の中から気になったことを調べてまとめたもの」など、子どもたち一人ひとりの興味関心や個性が現れた、「主体的に学ぶ姿」が感じられる内容のものが多く見られます。とても読み応えがあって、素晴らしい自主学習が出来ていると感じられるものが多くあります。

1学期、子どもたちが取り組んだ自主学習をコンクール形式で評価し、2～6年生からそれぞれ1点ずつ選んだ優秀作品を学校ホームページに公開しております。審査のポイントとしていくつかありますが、「めあてやふり返りが書かれているか」「どんな題材を選び、どんな発展学習にしているか」「自分の生活と結び付けているか」など、評価のコメントも一緒に掲載しております。

「自学って、どんなことをさせたら…」と思われる方は、一度ご覧いただくと参考になると思いますので、どうぞご活用ください。※2学期・3学期にも、コンクールを行う予定です。

学校 HP はこちらから



<学校ホームページへのアクセス方法>  
～次のいずれかの方法で！～

①アドレスを入力する

<https://www.education.saga.jp/hp/kanko-e/>

②「勸興小学校」で検索する

③右のQRコードを読み込む



(最長子配布) 教育目標「ふるさと勸興を誇りに、個性と創造性に富む子どもの育成」

### ☆運動会の練習、頑張っています☆

10月8日(日)の「勸興校区ふれあい大運動会」に向けて、練習も大詰めを迎えています。天気予報が非常に気になりますが、4年ぶりの地域との合同開催に向けて準備を進めているところです。8日(日)当日が雨天の場合の対応等については、先日学校から配布しました運動会の案内や、昨日配布の運動会プログラム等でもご確認いただけますが、当日朝の態度決定については、8日(日)の朝6時30分までに、『学校ホームページへの掲載』『学校情報メール(さがんメール)』でお知らせしますので、そちらでご確認ください。



【赤組の応援団旗～威風堂々～】



【白組の応援団旗～一致団結～】

### ☆除草作業への参加、ありがとうございました☆

10月1日(日)の除草作業へのご協力、ありがとうございました。たくさんの保護者の皆様、そして子どもたちの参加のおかげで、すっかりきれいになりました。これで、気持ちよく運動会を迎えられそうです。本当にありがとうございました。

10月14日(土)には、今年度2回目の古紙回収が予定されています。こちらもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ☆秋の夜長に『家読(うちどく)』はいかがですか☆

先に述べました「全国学力・学習状況調査」では、「読書好きの子どもは学力が高い傾向にある」という調査結果が出ています。先日、佐賀大学教育学部教授の達富先生のお話を聴く機会があったのですが、その折にも「音読は言語能力を高める上で重要」とお話しされていました。「本を読む」ということは、言語能力の発達に少なからず効果があるようです。勸興小の子どもたちは、よく読書に親しんでいるようですが、「家に持ち帰ってまで本を読んでいる」となると、かなり個人差があるようで、「家ではちっとも本を読みません」という保護者の方の声も聞こえてきます。これから迎える秋本番、『読書の秋』にちなんで『家読(うちどく)』はいかがでしょうか。

『家読』を行う際に重要なポイントは以下の3つです。

- ①幼児や小学校低学年の子どもには、保護者や家族が本を読んで聞かせてあげる。  
⇒大人だけでなく、兄弟が弟妹に読み聞かせをするのは、双方にプラスになります。
- ②子どもたちの身近にいつも本を置く。毎日短時間でも読書を薦め、子どもが本を読んでいるのを聴いてあげる。  
⇒読書をしたことを褒めるとともに、「今日はどんな本を読んだの?」と尋ねることも大切です。
- ③保護者自らが読書する姿を、子どもたちの眼に触れさせる。  
⇒大人が夢中になって本を読む姿を見せたり、子どもと一緒に読書をしたり、読み聞かせをしたりするのも効果的です。

大人は日々の多用感に追われ、なかなか読書の時間を作るのも難しいかもしれませんが、家族で『家読』に親しむことで、いつもと違う家族の対話が生まれてくるのではと思います。

せっかくの秋の夜長、『家読』に取り組んでみられてはいかがでしょう。